1 称名寺

日野の里（伏見区日野）から移安されたと伝える称名寺の本尊、木造阿弥陀如来坐像は、町有形文化財に指定されている。縦の一材ですべてを彫出し、内刳りも見られない古様な構造で、平安時代後期（10世紀末）ごろの京都周辺の地方作と位置づけられている。

明治初年に廃寺となった法蓮寺の旧仏、木造薬師如来坐像（国指定重要文化財）、東明寺の旧仏、大日如来坐像もまた、本堂内に安置されている。

山門には三宅安兵衛の石碑があり、「大日如来尊像稱名寺」とある。

所在地／佐古内屋敷25

2 雙栗神社

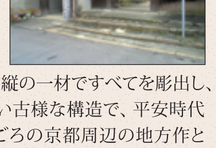
雙栗神社は明治以前まで「椏本八幡宮」と呼ばれていて、江戸時代後期に刊行された京都に関する地誌である「都名所図会」にもその名で登場し、「大久保の西の方二十町ばかり佐山村の林の中にあり。」と記述されている。

境内にある三宅安兵衛の石碑には、「御厨池舊跡」と記されている。

本殿等は国指定重要文化財、拝殿等は国登録有形文化財である。

所在地／佐山双栗55

3 大光寺



最勝山大光寺は、「佐山村寺社明細帳」によると、浄土真宗本願寺派京興正寺門跡の末寺で、永正元年（1504年）浄土真宗寺院として、僧良意が開基したことがわかる。

山門前には三宅安兵衛の石碑が立ち、本堂内陣の中心にある阿弥陀如来立像を表わすかのように、「阿弥陀如来尊像　大光寺」と記されている。

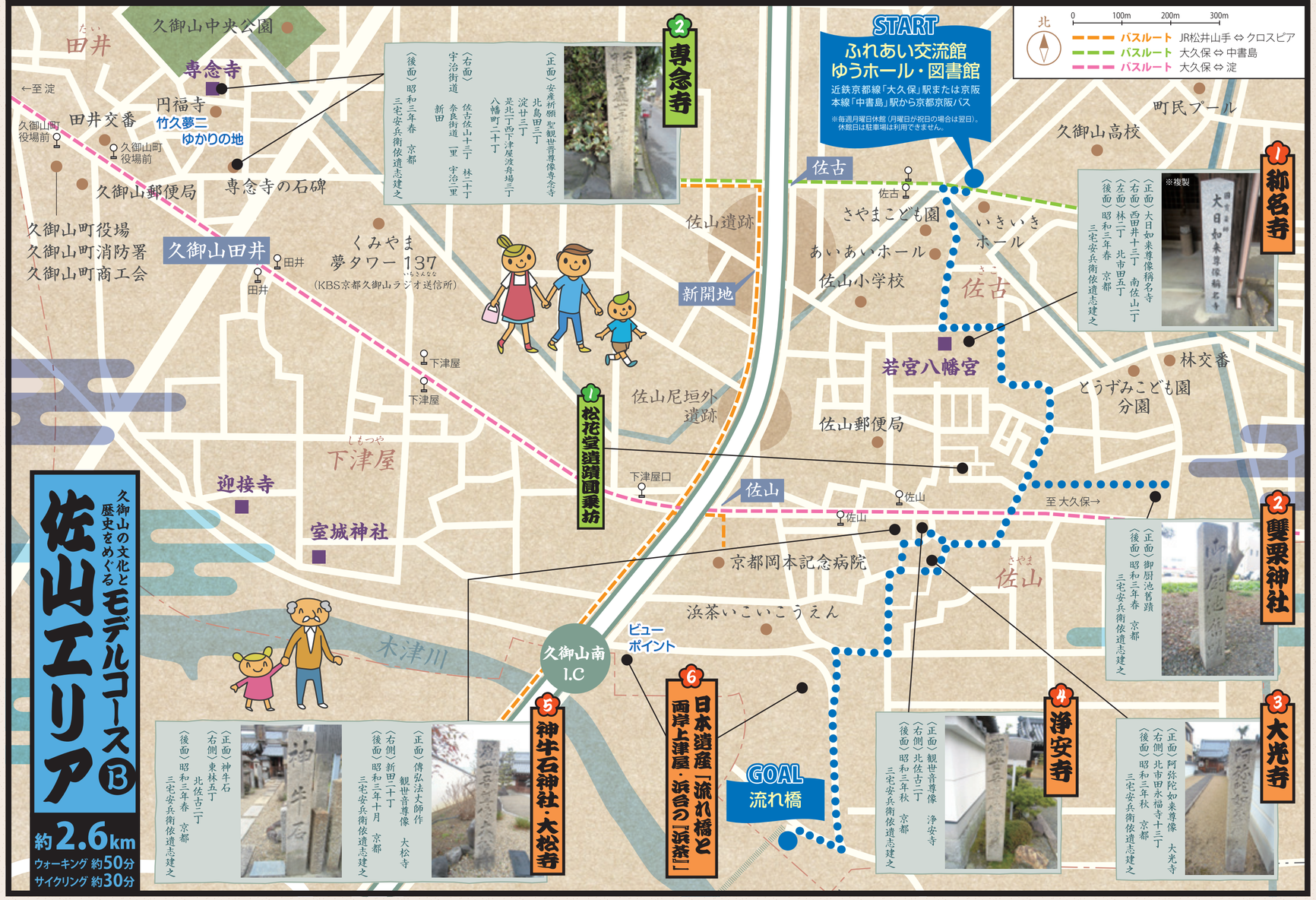
所在地／佐山栗ノ脇24

4 浄安寺

山門の石碑に「観世音尊像　浄安寺」と記されたこのお寺は、「椿寺」としても有名で、境内一円には老木・若木を含め200種を超える椿がある。椿の品種は、「侘助」と名付けられた茶花用の種類が多いが、その中でも浄安寺侘助と命名された品種は、門外不出の絶品とされている。これらの椿は、毎年２月中旬から４月中旬にかけて、本堂を会場に催されている「椿展」で鑑賞することができる。開花の順に全国の陶器の里から収集された一輪挿しに生けられ、副木をあしらって30数点が展示される。

境内の北側には浄福寺観音堂があり、本尊の木造聖観音菩薩立像は町指定有形文化財である。

所在地／佐山双置80
椿展：期間／２月中旬～４月中旬
拝観料／無料　　予約不要



5 神牛石神社・大松寺

金縛りの観音とも呼ばれる聖観音菩薩立像を本尊に祀る大松寺。その門前右側、20坪程の境内地に神牛石神社が鎮座し、牛がうずくまる形をした黒色の大きな石をご神体に祀っている。石碑はそれぞれ、「傳弘法丈師作　観世音尊像　大松寺」、「神牛石」と記されている。

所在地／佐山双置64-1

6 日本遺産「流れ橋と西岸上津屋・浜台の『浜茶』」

長大な木製の「流れ橋」がつなぐ木津川の両岸は砂地の豊かな土壌で、その河川敷に広がる茶園（上津屋、浜台）は、特に「浜茶」と呼ばれている。

佐山浜台には、木津川堤防の内側に茶園が広がり、町内の茶業家が伝統を受け継いで、高級茶である碾茶（抹茶の原料）を生産している。古い歴史を誇るこの茶園では、遠望に流れ橋、手前に広がる茶畑の風景が、のどかな日本の原風景を彷彿とさせる。

所在地／佐山浜台地先

ちょっと立ち寄り

1 松花堂遺蹟圓乗坊

住宅地の一隅に建立された小さな祠に、三体の石仏が祀られ、「松花堂遺跡円乗坊」と記された石碑がある。正応元年（1288年）如一上人が再興し、数々の沿革を伝える松花堂遺跡円乗坊は、佐山双置に広大な境内地を有し、その最盛期には300石を領有していた。しかし、時の流れと共に田畑は失われ、広大な境内地は住居と化し、かつてこの地に千年の歴史を秘める円乗坊があったことは、寺標でしか知るすべはない。

所在地／佐山双置90

2 専念寺

中世から近世初頭にかけて御牧郷を支配した御牧一族と所縁の深い寺院である専念寺には、「観世音縁起」が伝承されており、安産に霊験あらたかな観音尊像であると伝えられている。それを表すかのように、少し離れたところに立つ三宅安兵衛の石碑には、「安産祈願　聖観世晋尊像専念寺」と記されている。

寺宝である絹本著色阿弥陀三尊来迎図は、町指定有形文化財。

所在地／田井荒見33

久御山町の紹介

久御山町は、昭和29年10月1日に久世郡の御牧村と佐山村が合併して誕生した。町名は公募で、「久」世郡の「御」牧村・佐「山」村を合成したものである。

■巨椋池

町の北東部には、かつて巨椋池（古くは「大池」と呼ばれる）という巨大な湖沼が存在していた。宇治川、木津川、桂川の三大河川が合流し、周囲16km、面積約800haに及ぶ広大さであった。巨椋池をめぐる人間との関わりは石器、古墳時代までさかのぼることができ、町内でも遺跡が発掘されている。古文書、史書によれば、652年に淀川洪水を記して以来、山城を襲った大洪水は百数十回を数える。石で積んだ高い基壇など洪水に備える名残は今も街並みのところどころに見られ、水害に関心があることがうかがえる。

昭和16年、国営第１号の干拓事業によって、巨椋池は一大優良農業地帯として生まれ変わったが、池が存在した当時は漁業が盛んであった。東一口の旧山田家住宅の重厚な門構えは、巨椋池漁業者のとりまとめ役を務めた往時の繁栄をしのばせる。少し瓦が膨らんだ「むくり屋根」や縦張りの家は、「漁家」の名残かもしれない。

■「幻」の鉄道計画

池の存在は鉄道計画にも大きく影響しており、当然ながら現在の鉄道はこれを避けるように敷かれている。久御山町にも戦前、佐山村を通る鉄道計画があったが、国の認可直後に起こった世界恐慌や、続く大戦の影響を受け、計画は無期限延期、いつしか立ち消えとなった。しかし、戦後、車社会の到来を迎え、国道１号をはじめとする広域幹線道路網が整備され、その立地条件を生かした活発な産業活動とともに町は発展してきた。もしも鉄道計画が実現していたら、違った現在があったかもしれない。

巨椋池排水機場
「巨椋池まるごと格納庫」

巨椋池排水機場横にある「巨椋池まるごと格納庫」では、歴史絵巻や解説映像、立体地理模型などで様々なことを学ぶことができる。

所在地／京都市伏見区向島下五反田地先
開館時間／ 10時～ 16時
入館料／無料　　休館日／無休

■三宅安兵衛・石碑について

明治時代、三宅安兵衛という資産家がいた。福井県に生まれた彼は京都に出て財をなし、息子の清次郎に、お世話になった京都のために使うよう資産を遺して亡くなった。清次郎は、父が生前、旅行した際に案内表示が少ないことを残念がっていたことを思い、大正10年から昭和5年の10年間に、史跡・旧跡など合計400か所に道標のための石碑を建立したのである。

久御山町には全部で12基の石碑が確認されている。そのほとんどが昭和3年の建立であるが、損傷等により近年に一新されていたり、元の位置から移設されているものも見受けられる。